

## 令和8年度第1回小牧市東部まちづくり審議会 議事録

### 1 開催日時

令和8年4月24日（金）午後1時15分から

### 2 開催場所

小牧市役所 東庁舎5階 大会議室

### 3 出席委員（名簿順）

大塚 俊幸（職務代理）	中部大学教授
古池 嘉和	名古屋学院大学教授
浦田 真由	名古屋大学教授
和田 貴充（オンライン）	空き家活用株式会社代表取締役 CEO
守田 充宏	尾張中央農業協同組合
櫻井 克匡	社会福祉法人小牧市社会福祉協議会
立川 雅弥	こまき市民活動ネットワーク
落合 勝之	陶小学校区地域協議会
深堀 修	篠岡学区地域協議会
佐藤 章子	光ヶ丘小学校区地域協議会
小柳 松夫	桃ヶ丘小学校区地域協議会
西尾 貞臣	大城小学校区地域協議会
大木 壯太	公募委員
富板 晃洋	公募委員
松本 高幸	公募委員

### 4 欠席委員

増田 昇（会長）	大阪府立大学名誉教授
水落 太貴	一般社団法人小牧青年会議所
國保 雅文	小牧商工会議所
杉山 友美	小牧市小中学校PTA連絡協議会
晦日 優菜	公募委員

### 5 出席オブザーバー

愛知県交通対策課  
財団法人桃花台センター

### 6 欠席オブザーバー

愛知県県営住宅管理室

## UR 都市機構

### 7 事務局

舟橋 朋昭	都市政策部長
川島 充裕	都市政策部次長
横井 久志	都市政策部東部まちづくり推進室長
大澤 正人	都市政策部都市整備課長
西島 春恵	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係長
林 亮佑	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係専門員
服部 達也	都市政策部都市整備課 交通政策係長
坂本 実希	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係主任
渡辺 利樹	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係主事

### 8 傍聴人数 7名

### 9 会議内容

#### 1 開会

あいさつ

#### 2 議題

- (1) 東部振興構想アクションプラン(2026～2028年度) (案) について
- (2) 東部振興構想中間見直しについて

#### 3 報告

- (1) こまき巡回バス「こまくる」再編について
- (2) 令和7年度自動運転実証調査事業の実施結果について
- (3) その他

#### 4 閉会

## ・1. 開会

### 【都市政策部次長】

大変お待たせしました。定刻前ではありますが、委員の皆様お揃いでありますのでただいまより、令和8年度第1回小牧市東部まちづくり審議会を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

私は、本日進行を務めさせていただきます、都市政策部次長の川島です。どうぞよろしくお願いたします。

はじめに、資料の確認をさせていただきます。

本日の資料は、次第に記載したとおり資料1から資料7までであります。

資料が確認できないなどありましたら、お申し出いただきますようお願いいたします。

ご確認ありがとうございます。

本日の出席委員につきましては、15名でございます。

したがって、小牧市東部まちづくり審議会条例第6条第2項の規定により、本会議は成立しております。

ここで、当審議会の委員の交代がありましたので、ご紹介をさせていただきます。

尾張中央農業協同組合より選出されておりました川井則昌（かわい のりまさ）委員が退任され、新たに守田充宏（もりた みつひろ）様に就任いただくことになりました。どうぞよろしくお願いたします。

なお、事務局につきましては、配席図にて紹介に代えさせていただきますので、よろしくお願いたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず、はじめに会長よりあいさついただきますが、本日、増田会長が欠席でありますので、大塚職務代理よりごあいさつをお願いたします。

### 【大塚職務代理】

ただいまご紹介いただきました職務代理の大塚でございます。

前回に引き続き増田会長が欠席ということで、私の方で進行を進めさせていただきます。

この東部まちづくり審議会は令和3年から始まり、今年で6年目に入ったということで、本日の議題も26年度からのアクションプランについてと、東部振興構想の中間見直しといった内容で、中間期に差し掛かっております。そのため、改めて皆さんに今後どうしていくのかを議論できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

### 【都市政策部次長】

ありがとうございます。それでは以後の進行につきましては、大塚職務代理にお願いたします。

## ・2. 議題

- (1) 東部振興構想アクションプラン(2026～2028年度) (案) について

### 【大塚職務代理】

それでは、次第に沿って進めます。

はじめに、議題（1）東部振興構想アクションプラン（2026年度～2028年度）（案）について事務局より説明をお願いします。

**【東部まちづくり推進室 推進係長】**

それでは議題（1）「東部振興構想アクションプラン（案）について」ご説明いたします。着座にて失礼いたします。

資料2「東部振興構想アクション（案）をご覧ください。

本日ご説明するアクションプランは、東部振興構想に基づき、今後3年間で重点的に取り組む内容を具体化した実行計画であり、毎年見直しを行うローリング方式の計画となっています。

7ページをご覧ください。

アクションプランの構成についてですが、本アクションプランは、リーディングプロジェクト、新たな取組、実施中の取組の3つで構成されています。

13ページをご覧ください。

まず、仕組みづくりに関するリーディングプロジェクトです。

プロジェクトA「人と人がつながるプロジェクト」では、地域住民、事業者、学校、行政などが交流するワークショップを通じて、顔の見える関係づくりと、まちづくりへの参加のきっかけづくりを行います。

プロジェクトB「まずはやってみようプロジェクト」では、新たなアイデアや既存の取組を発展させる活動を対象に、認定支援や補助金支援を行い、挑戦しやすい環境を整えます。

プロジェクトC「東部地域まちづくり活動パートナーシップ制度」では、地域活動団体と事業者などをつなぎ、資金面や物資面、技術面での支援を受けやすくする仕組みを整えて、活動の持続性向上を図ります。

次に、具体的な実践プロジェクトです。

16ページをご覧ください。

「こどもマルシェ」は令和4年度のトライアル活動から始まり、3年間のトライアルを経て、令和8年度は自立2年目となる、こどもの社会体験や子育て世代の交流を促進する取組です。

17ページの「あおぞら市場 in 緑道」も令和4年度のトライアル活動から始まり、3年間のトライアルを経て、令和8年度は自立2年目となる、地産地消の推進や高齢者の買い物支援を行う取組です。

「リユースバスケット」は、空き家等を活用した地域の居場所づくりを進める取組で、トライアル3年目となります。

19ページ「子育て世代と高齢者のつながりDIY」では、ワークショップを通じた世代間交流を図る取組で、トライアル2年目となります。

これらのトライアル活動は、いきなり完成形を目指すのではなく、段階的に育てていくことを基本としています。

はじめに、地域の課題や「こんなことができたらいい」という思いを出発点として、関係者同士で話し合いながら企画を立てます。

その際、無理のない規模や役割分担を意識し、まずは実現可能な形で実施することを重視しています。

イベントや活動を実際に行った後は、「良かった点」「悪かった点」「次に改善したい点」をそれぞれ整理し、次回につなげるための振り返りを行います。

こうしたプロセスを繰り返すことで、取組の質を高めるとともに、最終的には補助金や行政の支援に頼らず、地域主体で継続できる取組へと発展させていくことを目指しています。

次に、35ページをご覧ください。

ここからは、東部地域で実施している取組について、東部振興構想で定めている取組方針

ごとに、「新たな取組」と「実施中の取組」に分けてまとめています。

新たな取組として「こども誰でも通園制度」は、保護者の就労の有無に関係なく、生後6か月～満3歳未満の未就園児を対象に、保育所や認定こども園などに時間単位で通園できる新しい国の制度です。

東部地域では、篠岡保育園、大城児童館、旭ヶ丘第二こども園で実施します。

36 ページからの実施中の取組についてですが、充実を図った取組をご紹介します。

43 ページの「果樹栽培サポータークラブ」については、「モモ栽培サポータークラブ」の名称を変更し、モモ栽培で培った技術を活かし、ブドウ農家への援農にも本格的に力を入れていきます。

最後に 49 ページ「進捗確認」につきましては、東部振興構想に定める KPI や参考指標を用いて、アクションプランの実施状況を確認してまいります。

指標の達成状況を踏まえ、取組の改善や追加を行うことで、まちづくりの実効性を高めていきます。

今後も地域の実情を踏まえつつ、柔軟に見直しを行いながら、東部地域の持続的なまちづくりを進めてまいります。

以上簡単ではございますが、資料2「東部振興構想アクションプラン（案）について」の説明とさせていただきます。

#### 【大塚職務代理】

事務局より説明いただきました点につきまして、委員の皆様からご発言をいただければと思います。今後3年やっていくことを従来の路線を引き継ぐ形で、新たに追加されるものあるいは充実をはかっていく内容については、一部盛り込まれた内容かと思えます。

#### 【和田委員】

特に意見ではないですが、資料が見やすく工夫されており、市民の方が見るときにわかりやすいと思います。また、活動は継続してやっていくことが大事であるため、このまま進めていただければと思っています。

#### 【立川委員】

39.40 ページの交流について、大城小学校校区地域協議会に関わっており、宝探しオリエンテーリングをやっているため、追加してもよいかと思えます。

#### 【東部まちづくり推進室 推進係長】

極力情報収集に努めているところではございますが、すべてを網羅できていないことから、皆様からのお声をいただきながら、追加等させていただき、さらに充実した内容にさせていただきます。

#### 【小柳委員】

交流と高齢者のお買い物支援ということで、あおぞら市場を緑道にて開催しております。これまで7回続けており、内容を会館での交流場所の提供や中学生の謎解きイベントの同時開催、そして体育館でのフォークダンスとあって毎年変えてきました。

しかし、昨年から学校再編の話があり、5校が2校になる地域の状況の中で、活動を進めていても、盛り上がってこない面があり、今までの力をさらに出すところまでも進みづらいです。したがって、今提案された内容は、今後の著しい少子高齢化の時代の中でどう進めていくかどの程度考えているのかお聞きしたいですし、アドバイスいただければお願いしたいです。

**【大塚職務代理】**

当初始めた内容から同じことずっと続けるのではなく、状況に応じて変えていくことが長続きする秘訣かと思いますので、参考にするとところかと思います。しかし、如何せんそれ以上に環境の変化が目まぐるしく、対応しきれないため、今後ますます難しくなる場合、継続の仕方について、委員の皆さまからアドバイスや市として考えがあればお願いします。

**【小柳委員】**

どんな状況であっても、交流して協力しあって住みやすくしていくことは進めていかなければならないと思っていますが、勢いとしては非常に辛い状況です。私たちが今やっている活動が、地域にとって野球で例えると、ヒットやタイムリーな内容となっているのか、本当ににぎわいにつながっているのか私の悩みとなっています。

**【大塚職務代理】**

活動が問題解決に直結していなくても、間接的に他の人たちにより影響を与えていて、影響を受けた人が次にバトンタッチしてつながっていくことを信じていますので、引き続き活動のお力をいただきたいです。

**【和田委員】**

当初から比べるとこのプロジェクトが様々な取組が立ち上がっていることは、前進している証拠です。現在も地道に活動を続け、つなげていただいていると思います。このように、事業を継続してやっていくことが地域のためになっていると思います。ただ、課題として、次世代の実行者となる担い手につくっていく目線が今後大切になります。

**【大塚職務代理】**

賛同していただいている方は多くいるかと思いますが、主体的に活動いただける方を増やすことを地道につづけていくことが大切になります。

**【小柳委員】**

中学生との交流でも、小学校6年生が桃花台をアップデートといった地域を考える授業でも、自分たちでまちについて何ができるかを真剣に考えていることを感じた。そのため、学生に引き継いでいくことが重要だと考えています。

**【大塚職務代理】**

令和8年2月のトライアル活動の実施報告会に参加した際に、高校生や中学生も参加しており活動をしていることを知りました。地元の高校生や中学生が活動している姿を小学生が見て育っていくつながりを大切にし、学生の参加の促進を行政として進めていただければと思います。

**【佐藤委員】**

37ページの食料品の移動販売について、ローソンストア100が5月末日で移動販売を停止します。光ヶ丘小学校区では4か所での実施していたため、そのエリアの方は買い物難民になってしまう問題がでてきていますので、皆さんに知っていただきたいです。

**【大塚職務代理】**

公表される時点での正しい情報に資料内容を修正いただければと思います。

**【東部まちづくり推進室 推進係長】**

ローソンストア100様の状況確認等踏まえて資料修正いたします。

**【富板委員】**

社会福祉協議会内のココボラという高校生が主体しているボランティア団体のサポーターを務めています。地域貢献や奉仕活動の土台づくりは、30年前から市内中学校にあるジュニア奉仕団にてできています。様々な地区で実践できると考えていることは、活動の現場で、ジュニア奉仕団のボランティア活動とのマッチングができる仕組みがあると良いと思います。

ボランティアに行く機会が増え、地域の大人が地域のために活動している姿を見る機会が増えると、地域の課題に気づき、担い手につながっていくと思いました。

**【立川委員】**

38・39ページ高齢者の協議会が令和8年度で一段落するというところで、事業が令和8年で終わることはわかるが、協議会と紐づいていない認知症カフェやサロン活動も令和8年度で終わるという認識でしょうか。

**【東部まちづくり推進室 推進係長】**

終わるという認識ではなく、市の実施計画が3か年であることにあわせ、表記させていただきました。他の事業については、決して終わるということではなく、計画にあわせた表記とさせていただきます。

**【大塚職務代理】**

2点ご指摘いただいた内容に踏まえて必要に応じて修正をお願いします。今回議論したアクションプランに基づいて、2026年度から進めるということによろしいでしょうか

《異議なし》

**【大塚職務代理】**

では、一部修正を加えた上で、ご承認いただいたということで進めさせていただきます。

- ・（2）東部振興構想の中間見直しについて  
続きまして、議題（2）東部振興構想中間見直しについて事務局より説明をお願いします。

**【東部まちづくり推進室長】**

説明に先立ちまして、一点諮問についてご報告申し上げます。

令和4年3月に策定した東部振興構想は令和4年度から令和13年度の10年間を計画期間とし、期間の中間で見直すこととしております。

つきましては、中間見直しに向け、小牧市東部まちづくり審議会条例第2条の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。

市長より、この諮問を受け、検討・審議をお願いするものでございますので、どうぞよろしく願いいたします。

**【東部まちづくり推進室 推進係長】**

それでは、議題2「東部振興構想の中間見直し」について、資料3～5をまとめてご説明をさせていただきます。

資料3では、東部振興構想の中間見直しについて説明しています。

東部振興構想は、地域住民の方々をはじめ、各種事業者や行政など東部地域に関わりのある方々が、共通認識を持ち、夢と希望を持ってまちづくりに取り組むための行動の道しるべとなるよう「まちの将来像」や「ヴィジョン」を明確にするもので、令和4年度から13年度までの10年間の計画として策定されました。

構想では、計画期間の中間で現状の検証と見直しを行うこととしており、その中間期に基

礎データの更新や現状の整理を行い、その結果を踏まえて令和8年度に見直しを実施します。次のページをご覧ください。

構想の位置づけとしては、市の上位計画や関連計画と整合を図りながら、東部地域のまちづくりを総合的に推進する役割を担うものです。今後も他の計画と連携し、地域の将来像の実現に向けて取組を進めていきます。

次のページをご覧ください。中間見直しのスケジュールです。

説明に先立ちまして、一点ご報告させていただきます。

本構想において令和7年度に実施予定としておりました基礎データの更新および現状の整理につきましては、前回の審議会において、令和7年度中に実施し、あわせて審議会でご意見を伺う予定である旨をご説明しておりました。

しかしながら、新市長就任に伴い議会日程が後ろ倒しとなったことから、前回お示したスケジュールどおりに進めることができず、今回の審議に至ることとなりました。

審議会は計4回開催を予定しており、今回が、現状整理と課題、第2回で中間見直し案、第3回でパブリックコメント案を審議します。パブリックコメントを経て、第4回に結果報告を行い、最終的に中間見直しを取りまとめる流れとなります。

最後に、見直しの考え方です。今回の見直しでは、人口動態や空き家の状況など、近年変化しているデータを踏まえて現状と課題を整理します。基本的には、まちづくり5原則、将来像、ビジョン及び取組方針については、現行を踏襲することとし、東部地域の現状を最新データに時点更新するとともに、その他必要と考えられる基礎データを収集し、現状の再整理を行い、必要があれば取組内容や指標の見直しを検討します。

次に、資料4「東部地域の現状」についてご説明いたします。

資料4では、令和4年3月に東部振興構想を策定してから約4年間の変化を中心に、東部地域の人口、住宅、産業などの状況を整理していますが、特に課題の整理につながるものを中心に説明させていただきます。

では、3ページをご覧ください。

東部地域の人口は、平成16年をピークに減少が続いており、特に20代、30代前半の若年層において転出が拡大している傾向が見られます。

4ページをご覧ください。

一方で、高齢化は着実に進行しており、今後は高齢者のみの世帯や単身高齢者世帯のさらなる増加が見込まれています。また、外国人人口は増加しており、地域の多様化も進んでいます。

5ページをご覧ください。

児童・生徒数については、小中学校ともに全体的に減少しており、大城小学校や光ヶ丘中学校では大幅に減少しています。

14ページをご覧ください。

空き家の状況を見ますと、市内6地区の中でも篠岡地区が最も多く200棟となっております。

15ページをご覧ください。

県営住宅の入居率ですが、桃花台ニュータウンの県営住宅は、他地域と比べて入居率が低い状況となっています。

20ページをご覧ください。

東部地域の農家数は長期的に減少しており、農業をはじめとする地域産業において、担い手不足が進んでいる状況となっています。

最後に、資料5「東部地域の課題」についてご説明いたします。

この資料は、ただ今ご説明しました資料4の現状を踏まえ、東部振興構想で掲げる3つのビジョンごとに、現在の課題を整理したものです。

まず、ビジョン1「多様な人が暮らし続けられるまち」については、高齢化の進行を踏まえ、高齢者が安心して暮らせる交通環境や歩行空間の確保が大きな課題となっています。

また、桃花台ニュータウンでは、子育て世代や若年層の減少が続いていることなどから、公園や緑道の再整備、人と人とのつながりを育む環境づくり、多文化・多世代交流の促進が求められています。

次に、ヴィジョン2「多様な職業が共存し、持続できるまち」についてです。

農業を中心とした地域産業では、担い手の高齢化や後継者が不足していることより、新規就農者や新規事業者が参入しやすい環境づくりが必要です。

あわせて、地域課題を解決する起業や新しい仕事づくりを進めていく視点も重要となっています。

最後に、ヴィジョン3「訪れたくなる、住みたくなる魅力のあるまち」についてです。

自然や文化といった地域資源を活かした魅力づくりと、その魅力を効果的に発信していくことが課題となっています。

また、若年層の転出や空き家の増加を踏まえ、空き家活用や多様な住まい方の促進を進めるとともに、転入者も含めた持続可能な地域コミュニティの形成が求められています。

以上の課題を踏まえ、今後の中間見直しでは、将来にわたって持続可能で魅力ある東部地域の実現に向けて、取組の方向性を整理してまいります。

簡単ではございますが、議題（2）「東部振興構想中間見直しについて」の説明とさせていただきます。

#### 【古池委員】

見直しについて、効果検証を行って見直すプロセスが大切ではありますが、昨年度終わっているのか、課題のまとめで効果検証とするのであれば、効果検証とはいえないのではないのでしょうか。いきなり考え方がでてくることについて違和感があります。

#### 【東部まちづくり推進室 推進係長】

効果検証については、昨年度開催いたしました令和7年度第1回小牧市東部まちづくり審議会において、資料3 東部振興構想の進捗状況にて、報告させていただいたところです。

特に、市のホームページ「東部まちづくりニュース」の年間アクセス数が減少していることから、東部地域の魅力が効果的に市内外に発信できていないことを課題としてあげました。

令和7年度の効果検証につきましては、今年度中の審議会において審議いただければと考えています。

#### 【古池委員】

資料5の課題について、ヴィジョン2の農業公園を令和8年・9年に整備、令和10年に開園を目指すとなっていますが、最終的に農業公園をどう受け止めていくかが課題となってきます。場所ができるだけでなく、ソフトがどう結実していくかが重要になるため、こちらでは意識されていないのではないのでしょうか。

#### 【大塚職務代理】

いざ進む中でどう活用して地域の振興につなげていくかが、検討資料に上がってきていないということかと思いますが、いかがですか。

#### 【東部まちづくり推進室長】

小牧市農業公園につきましては、「食育と環境～農と里山の恵み・ふれあい～」を基本理念とし、身近な農業を通して食の大切さを理解する場とするとともに、里山を活かした自然環境とのふれあいを通して農業振興の発信の場を目指すものであります。

令和5年度から令和6年度にかけて造成工事を施工した約2ヘクタールの区域において、令和7年度から、公園整備工事を実施し、この理念に基づき、貸し農園や収穫体験農園などを整備すると聞いております。このほか、管理棟の建築等も進めていくと聞いております。

貸し農園については、農業初心者向けに農地を貸出し、農業振興を図る場として整備をしていく予定だと聞いております。

収穫体験農園については、作物を収穫する喜びを体験し、農業に興味を持っていただくきっかけの場とすると聞いております。

東部まちづくり推進室としても、農業公園の事業を基に、これからどのようなことをやっていけるのかを含めて注視していきたいと考えております。

**【大塚職務代理】**

ヴィジョン2の1番目の内容にかなり関わってくる内容であり、整備を活かしてという内容を課題1にあっても良いというご指摘かと思えます。

**【古池委員】**

公共施設ができて、地元は関係ないということではよくないので、開園に向けて、地元との接点をうまく取り入れていくかということ課題として認識いただきたいです。

**【大塚職務代理】**

ぜひご検討ください。

**【櫻井委員】**

ハイウェイオアシスは、いままで工事が止まっていたところ、最近また工事が始まりましたので、活用方法については一切触れていませんが、どのように考えていますか。

**【東部まちづくり推進室長】**

スマートICを含むハイウェイオアシスにつきましては、あくまで市の事業ではなく、民間事業であることは皆様ご承知だと思います。ただ、東部地域のまちづくりにつきましては、重要な施設であると認識しておりますので、今後の工事の進捗状況など、情報収集に努めていきたいと考えています。

**【小柳委員】**

東部振興構想の若年の世代も住みたくなるすまいの創出の中で、他市町では、県営住宅やUR住宅をリノベーションして、若い人たちに魅力を感じる施策を実施していることが書かれています。集合住宅について、他市町のような施策をとる必要があると感じています。

このように、リノベーションして若い人たちに賃貸するような形をとらないと人口減少の歯止めをすることは難しいです。そのため、県住の主体である愛知県にも積極的な協力を呼び掛けていく等、具体的な行動を起こすなど努力が必要になります。

**【大塚職務代理】**

具体的な構想の施策に盛り込んでいくことかと思いますが、つなげていくためには、課題として認識されていないといけないかと思えます。県営住宅の空き部屋の問題等については、この課題ではどこに含まれていますか。問題意識として書かれていますか。

**【東部まちづくり推進室長】**

資料5の4ページの下段にある「多様な世代が住みたくなるすまいの創出」に空き家・空き部屋を活用した住宅の流通促進が必要とのことですが、県営住宅となると、所有が愛知県であることから、なかなか県営住宅に特化したところまでは書きづらい状況であります。だからといって何もしないということではなく、昨年度愛知県に県営住宅管理室や公営住宅課、住宅供給公社と打合せをさせていただき、状況のお話をさせていただいています。愛知県の考え方としては、これまで関係部署と意見交換を行い、入居状況や建物の老朽化などの現状

を踏まえながら、修繕や募集方法の工夫など、愛知県として可能な対応を進めているという旨を確認したところです。

本市としては、愛知県の考え方を踏まえ、今後について引き続き情報共有を図っていききたいと考えています。

#### 【大塚職務代理】

今後どうしていくのかについて、市として愛知県や民間へ働きかけを行うことについては、具体的に記載いただくことが、そのあと実際に動いていくのではないかとということが小柳委員の意見であるため、計画に書かれる内容については、その点も踏まえてご検討いただければと思います。

#### 【西尾委員】

資料5について、ヴィジョン1～3についてすべてがどう進んでいるのか疑問に思っています。すべてをお伝えするには時間が足りないので、ヴィジョン1の2子育て世代にとって魅力ある環境の中の、学校再編について話をしたいと思います。

5校が2校になることで、大城小学校区はもともと半分桃ヶ丘小学校、光ヶ丘小学校に行くことになる。陶小学校においては、もともと桃ヶ丘小学校から独立したが、今回もとに戻るといった流れです。

再編の区割りについて、今回再編がされるのであれば、桃ヶ丘小学校に近い大草についても光ヶ丘になり、遠い地区についてはバスを用意されるとの話ではあるため、子どもたちにとって通学距離が短く、地域とのつながりを意識するには、バランスよく区割りする方が良いでしょう。

審議する会議は別にあるため、深く話はできませんが、東部まちづくり推進室として大きなくくりとして、それぞれのセクションに横くしを刺す組織であるならば、もう少し当事者がどう考えるか反映しないと後々禍根を残すのではないかと心配しています。

環境を整えていくこと、地域に愛着を持てる環境、世代を超えた地域交流と書かれており、その通りではありますが、具体的にどう進めていくかの裏付けがないため、絵空事に聞こえてしまう。さらに掘り下げないといかなければならないと思います。

この審議会ですべきことは、もっと本質的なことを掘り下げて各セクションに横くしを刺す役割でなければいけないと考えており、しっかり考えていくには時間が足りないように感じます。

他のセクションとのコミュニケーションをどうされているか教えていただきたいです。

#### 【東部まちづくり推進室長】

今回の審議会に諮る前に、関係する各次長級が参加している庁内検討会議にて、資料の共有をし、各部より意見を吸い上げて、今回お示ししていることから、横の連携は取れている認識です。

#### 【西尾委員】

他の例でお話すると、ヴィジョン3訪れたくなる住みたくなる魅力あるまちづくりですが、東部には池之内の名古屋コーチン発祥の地である海部兄弟が養鶏していた場所など史跡がたくさんありますが、看板が立っているだけの状況です。その状況から、車が止められるなどの整備をすれば、東部全体を1日巡り、地域の歴史を知っていただくことや、健康を兼ねたウォーキングなどが可能になります。そのため、所有者に整備の協力をいただくための、土地の減免や買い上げるなど少しずつ進んでいけば、やっていることが伝わります。現場が目に見える形で進んでいなければ、会議のための会議と受け止めてしまいます。この答えは求めませんが、こういった点を指摘したいです。

#### 【大塚職務代理】

課題を踏まえた施策の展開にて反映されないといけない内容であり、実は、現段階から、その先を意識しながら課題を挙げていくことが重要ということをご指摘いただいたかと思っておりますので、記録として留めていただき、計画にどこまで盛り込めるかはわかりませんが、協議しながらできる範囲の内容を計画に盛り込んでいただければと思います。

#### 【和田委員】

机上の空論になりがちな部分はあるかと思いますが、片や進んでいる部分もあり、片ややきもきする部分もあるというのは、致し方ないのかとも思いました。先ほどの会長がおっしゃったように、多くの違和感や課題を挙げた上で、何を優先的に進めていくかを常に意識しながら進めていくことが大切であると思います。

様々な提案に対して、主体的にやる人がいないことが問題になり、すべてを行政が担うのは難しいため、やはり地域の皆様、事業者、行政が三位一体で進めていかなければと思っています。とにかくこの先一緒にやってくれる実行者をいかに増やしていくかが一番のポイントであるため、実行者を増やすためのフェーズに移り、もっとやりたいことを始めて継続していくことかと思っています。

#### 【東部まちづくり推進室 推進係長】

実行者を増やしていくために、「人と人がつながるプロジェクト」として、まちづくりワークショップを毎年実施しているところです。ワークショップにおいて、実行者を募り中心となって活動を進めていただいております。また、地域に関わるすべての人向けに、まちづくりセミナーを実施し、人材育成を図っています。

#### 【大塚職務代理】

実行者をいかに増やしていくのか、まちづくりに関わる人がそれぞれできることが異なるため、役割分担を明記して、それぞれがやるべきことを進めていくことが基本となるかと思っております。

#### 【和田委員】

実行者が増えていることは非常に良いことだと思います。委員会にも参画していただけることより良いかと思われました。

やりたい方が出てきた際のまちづくり活動のお手伝いとしてマッチングするなどの仕組みやフローができていますとより良いかと思っておりますので、ここまでできていることがあればご紹介ください。

#### 【東部まちづくり推進室 推進係長】

東部まちづくりプラットフォームにてまちづくりに関心のある方の登録を進め、東部地域のイベントや活動を知っていただくことや、トライアル活動の実施報告会への参加いただくことで、活動を知り、応援やお手伝いなどのつながりが生まれています。

#### 【和田委員】

できるところだけやってくださいとなると、どういった参加の仕方が良いのかわからないなどの細かいことが大切になるため、具体的に活動やイベント日時をお伝えできるプラットフォームになっていけば参画しやすくなるため、工夫いただければと思います。

#### 【落合委員】

事業を進める度に話にあがるのは、学校再編であり、地域に大きな影響を与えております。陶のおやじの会が実施している花火大会について、今年度で最後というチラシが新聞に折り

込まれていました。当初に比べると花火師とのつながり等により、徐々に大きな会になっていき、盛大に実施してきたこの会を絶対に残していかなければと思っていました。

また、桃花台はまちで、その周りについては既存集落で人口も密集していないことで、状況が異なるため、大切にしたい事業の一つでした。

この大会廃止においても、それぞれが学校再編について、現在黙ってこらえている状況であるため、少なからず学校再編が影響していると感じています。学校再編について市で決まったからといって突っ走るような姿勢があれば、これだけの影響を与えていることを知っていただきたい。

#### 【大塚職務代理】

学校と地域が互いに関わり合う世代を超えた地域交流を促進することについて、基本小学校単位でコミュニティが形成されてきて、今後地域のコミュニティをどう維持し発展させていくのが地域の大きな課題になるため、地域の交流を促進することが必要という意味での記載だと思います。

今後の具体的に計画に書きこむ際に、皆さんとの考えが共有できればと思います。ただ、その際には、丁寧な説明が必要になると思います。

では、議題（２）は以上とさせていただきます。今回貴重な意見がありましたので、次回計画案に反映いただければと思います。それでは次に移ります。

### ・3. 報告

#### ・（１）こまき巡回バス「こまくる」再編について

##### 【大塚職務代理】

報告事項「（１）こまき巡回バス「こまくる」再編について」に入ります。

事務局から説明をお願いします。

##### 【都市整備課 交通政策係長】

報告（１）こまき巡回バス「こまくる」の再編についてご説明いたします。

こまき巡回バスは、持続可能なサービスの提供や、利便性向上などを目的に、概ね5年おきにルートやダイヤなどを再編しています。

本日は、令和8年4月1日から運行を開始した再編の内容についてご報告いたします。

お手元の資料6、1ページ目をご覧ください。

資料の左側になりますが、今回の再編では、運行目的を「公共交通による市民の移動手段の確保」とし、「持続可能なサービスの提供」と「利便性の確保」を再編のテーマに掲げ、ルートやバス停、ダイヤを見直しました。

資料の右側には、今回の再編のポイントを記載しています。ポイントは大きく4つございます。1つ目は、多くのコースを名鉄小牧駅と小牧市民病院の両方を經由するように設定し、目的地まで行きやすいルートとしました。2つ目は、イオン小牧店の敷地内など、より利用しやすい場所へバス停を設置するなど、バス停がもっと使いやすいようにしました。3つ目は、小牧市民病院の外来受付開始時刻を意識したダイヤを設定し、通院にも便利なダイヤにしました。4つ目は、「こまくる」色にラッピングした28人乗りのEV車両を2台導入しました。これらの再編のポイントにより、利便性向上が図られるものと考えております。

こうしたポイントで再編を行ったところではありますが、一方では、運転手不足の影響や「こまくる」間の乗り換えを少なくしたルートとしたことにより、ルートによっては、運行便数の減少や運行間隔が長くなるといったことも生じています。

2ページ目をご覧ください。

再編後の運行系統の全体図となります。

資料右側にある運行系統一覧の凡例をご覧ください。

凡例に記載のとおり、再編前は23コースに対し、再編後の系統数は市内全体で18コース

となります。系統番号は1から18までの通番とし、系統の名称は、ルート上の代表的な住所地を用いるものとし、小牧駅と小牧市民病院のバス停留所に停車する系統には、名称の後ろに小牧駅のアルファベットの頭文字であるKと病院の英語表記であるホスピタルの頭文字のHをカッコ書きで示すこととしています。

3 ページ目をご覧ください。

路線の新設区間、廃止区間を示した全体図となります。

4 ページ目をご覧ください。

4 ページ目と、次の5 ページ目は東部地区を運行する系統の再編前後の路線図となります。再編前後の運行系統につきまして、5 ページの図で説明いたします。

東部地区を運行する系統は7系統で、再編前から変更はありません。

資料右下の凡例に記載の系統のうち、白色の丸と線で繋げてある7番と13番、15番と16番、17番と18番は再編前と同様にそれぞれ乗り継ぎなしでご利用いただける系統となります。

今回の再編での主な変更点としては、まず、7 下末桃花台線の起終点を小牧駅から小牧市民病院へ延伸しました。次に、11 本庄桃花台線は小牧駅を経由するルートとしました。次に、15 篠岡光ヶ丘線は光ヶ丘地区を経由するルートとしました。最後に18 高根下末線は下末地区を経由して小牧勤労センターまで延伸しました。

6 ページ目をご覧ください。

東部地区を運行する系統の再編前後の内容を比較した表になります。

再編後の変更箇所は再編後の表中に赤字で示しています。

再編前後の運行便数や運行時間帯につきましては、系統の統廃合やルート変更などにより単純な比較はできませんが、再編前の系統全体の再編後の傾向としましては、運行便数は、運行上設定している便数で平均2便の減便となり、また、運行時間につきましては、起点となるバス停留所の発車時刻の時間帯で、一部の系統の始発の時間帯が1時間遅くなり、終発の時間帯が1時間早くなるものであります。

運行便数の減便は、全国的な運転手不足の影響を受けたことや運転手の休息时间などを定めた国の基準の改正により、便と便との間隔を基準に合うように確保したためであります。

なお、東部地区を運行する系統に使用している車両につきましては、7番、11番、13番では35人乗りのロングポンチョを、15番から18番は28人乗りのショートポンチョを基本として運行しております。こちらも再編前から変更はありません。

以上で、報告(1)こまき巡回バス「こまくる」の再編についての説明とさせていただきます。

#### 【大塚職務代理】

ただいまの報告(1)について委員の皆様からご質問がありましたら、せっかくの機会ですので、お受けいたします。

#### 【浦田委員】

皆さんが使いやすくなるように再編されたということですが、今後実際にアンケートを取る等して、本当に便利になったか検証されますでしょうか。

#### 【都市整備課 交通政策係長】

こまき巡回バスについては、概ね5年おきに再編をしております。今は、再編運行が始まったばかりではありますが、今後につきましては、こまくる再編後の利用状況の把握に努めるとともに、引き続きこまくるが市民の移動手段として多くの方にご利用いただけるように時期再編に向けての研究は続けていきたいと考えております。

- ・（２）令和７年度自動運転実証調査事業の実施結果について

【大塚職務代理】

続きまして、「（２）令和７年度自動運転実証調査事業の実施結果について」に入ります。事務局から説明をお願いします。

【都市整備課 交通政策係長】

報告（２）令和７年度自動運転実証調査事業実施結果について、令和６年度との取り組み内容の違いや主な実証結果についてご説明いたします。

お手元の資料７、２ページをご覧ください。

令和７年度の実証調査の実施概要につきましては、令和７年１２月１８日に書面にてご報告させていただいた内容から変更ございませんが、令和６年度に引き続き、桃花台ニュータウン地内において、バス型車両１台を使用し、令和８年１月２２日から２月６日までのうち土日を含む１４日間運行しました。

３ページをご覧ください。

令和６年度との運行における主な違いとしましては、③運行ルートをかまき巡回バス「こまくる」への導入を見据え、令和８年４月１日に再編運行を開始しました「１５ 篠岡光ヶ丘線」としました。また、⑤その他に記載のうち、運行事業者としてかまき巡回バスの運行事業者であるあおい交通株式会社を加え、運転手や遠隔監視員の派遣を行っていただいたほか、乗車された方だけではなく乗車されていない方を対象としたアンケート調査も実施しました。

４ページをご覧ください。

検証内容についてです。

社会受容性に関する検証のうち認知拡大に関する事項となります。

主な取り組みはページ上段に記載のとおり、令和６年度に引き続き地区回覧を実施するなど認知拡大に努めました。

検証結果は下段に記載のとおり、運行期間中延べ４５３名の方にご乗車をいただき、乗車アンケートでは、乗車前より約８２．１％が自動運転技術の信頼が向上し、約８６．９％が導入への期待感が向上する結果となりました。また、非乗車アンケートでは、約８４．２％が自動運転バスへの乗車に意欲を持っていることが分かりました。

６ページをご覧ください。

社会受容性に関する検証のうち理解促進に関する事項です。

主な取り組みはページ上段に記載のとおりであります。新たな取り組みとして、チラシの裏面に自動運転の必要性や技術に関する内容を掲載、乗車アンケートに、将来的な実際の運行を想定した設問を入れました。

検証結果は下段に記載のとおり、乗車アンケートの「乗務員や遠隔監視員への参加意向」は６０％が協力に関心を持っており、「無人運行となった場合の利用者同士での助け合い」は約９７．９％の方が協力したいと回答されました。

８ページをご覧ください。

走行性・安全性に関する検証のうち走行環境に関する事項です。

主な取り組み内容と検証結果は記載のとおりであります。

下段の検証結果の１つ目のチェックをご覧ください。運行ルートにおける、自動走行率は約９７％と安定的に自動走行ができました。

３つ目のチェックをご覧ください。令和６年度に自動走行ができなかった桃花台センターロータリーにおいて、自動走行が可能であることが確認できました。しかし、現在の技術では安定した自動走行が難しいことから、運行期間中は安全のために手動走行としました。

６つ目のチェックをご覧ください。令和６年度には実施しなかった路上に停車した車両の回避にも取り組みました。見通しが良好であるなどの条件が整った環境においては、自動運転により車両の回避ができることが確認できました。

最後のチェックをご覧ください。非乗車者アンケートより、自動運転バスの近くを歩行・

自転車での通行経験がある方のうち約 80.3%、運転経験がある方のうち約 78.9%が通常の車両と比較して「安心、少し安心、代わらない」と回答されました。

9 ページをご覧ください。

自動運転の関連技術に関する事項です。

主な取り組み内容と検証結果は記載のとおりであります。

下段の検証結果の2つ目のチェックをご覧ください。WEB での乗車予約を受け付けし、令和7年度は新たに予約の管理を6桁の番号で管理し、チェックインシステムにより予約確認を行いました。混乱なく予約の確認ができました。

最後のチェックをご覧ください。すべての便において大きなシステムトラブルはなく、定時運行ができました。

令和7年度自動運転実証調査事業実施結果については以上であります。自動運転については、現時点において、手動介入が多い区間は自動走行できるような環境面や技術面の課題をクリアする必要があり、運行ルート全体での無人での自動走行が可能となるレベル4許認可取得ができない点に加え、導入に必要なコストやその後の運行に必要なコストが現行の「こまくる」に必要な運行経費と比較して多額のコストが必要となるといった理由から、大型二種免許を取得した運転手がいらない状態での自動運転を「こまくる」にただちに導入することは難しい状況であり、今後、諸条件が整った場合に、速やかに導入できるよう引き続き自動運転に関する調査研究は必要であると考えております。令和8年度は、レベル4自動運転の許認可を取得し、バス事業として運行している先行自治体の事例収集や、これまでの実証調査での検証結果を踏まえ、「こまくる」への無人自動運転移動サービスの導入方針を整理していきます。

以上で、(2) 令和7年度自動運転実証調査事業実施結果についての説明とさせていただきます。

**【大塚職務代理】**

ただいまの自動運転実証調査事業につきまして、ご質問ございますか。

《質問なし》

(3) その他

**【大塚職務代理】**

その他について事務局より説明をお願いします。

**【東部まちづくり推進室長】**

議題(1)アクションプランについて、修正点2点について、事務局にて修正させていただき、会長確認を前提とした会長一任にて進めさせていただいてよろしいでしょうか。

**【大塚職務代理】**

いかがでしょうか。事務局で直していただき、私が確認するというところでよろしいでしょうか。

《異議なし》

**【大塚職務代理】**

本日予定しておりました議事はすべて終了しました。

委員の皆様におかれましては、たくさんご発言いただきましてどうもありがとうございました。

それでは、事務局にお戻しします。

#### ・4. 閉会

##### 【都市政策部次長】

委員の皆様、本日はお忙しい中、長時間にわたり、議論をいただきましてありがとうございました。

なお、本日の会議の会議録につきましては、作成次第、委員の皆さんに送付し、内容の確認をしていただきたいと考えておりますので、ご協力をお願いします。

最後に事務局より交通安全のお願いをさせていただきます。

4月18日に、小牧市桃ヶ丘二丁目地内の交差点で、市内で本年3件目となる交通死亡事故が発生しました。

交通事故の多くは、交差点で発生しています。交差点は、自動車や自転車等の車両、歩行者など、多くの方が行き交う場所です。

車両運転時には、信号や一時停止等の交通規制に従うことや安全な速度で通行することはもちろん、横断者や他の車両等を見落とさないよう確実な安全確認をし、交通安全に努めていただきますようお願いいたします。

以上をもちまして、令和8年度第1回小牧市東部まちづくり審議会を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。